



iPS細胞対応の国産TPEチューブを8月3日発売

サンプラテック、再生医療市場での安定調達・製造支援へ向けた第一歩へ

株式会社サンプラテック（本社：大阪府大阪市、代表取締役：加藤学司）は、再生医療の製造現場で使われる医療用のチューブを国内で開発し、2026年8月3日から発売します。

iPS細胞を使った再生医療は、2026年3月に世界で初めて日本で製品化が承認され、患者のもとに届き始めています。

細胞を培養する工程に欠かせないチューブは、これまで海外製品に頼っていたのが現状でした。当社は、国産チューブを提供することで、再生医療をより安定して届けられる体制づくりを後押しします。



なぜ今、“チューブ”が話題になるのか

2026年3月6日、iPS細胞を使った再生医療の製品2つが、世界で初めて条件付きで承認されました。京都大学の山中伸弥教授がノーベル賞を受賞したことでも知られるiPS細胞ですが、長く研究段階にあった技術が、患者に届く治療として動き出しています。

こうした治療薬は、専用の工場で細胞を培養してつくられます。その工程では、培養液を運んだり交換したりするために、細いチューブが欠かせません。細胞に直接触れるものなので、材質や清潔さの管理が製品の質を大きく左右します。

ところが、国内の細胞培養の現場で使われるこうしたチューブの多くは、海外製品に頼っているのが実情です。届くまでに時間がかかったり、価格が変わったりすることが、安定してつくり続ける上での悩みの種になっていました。

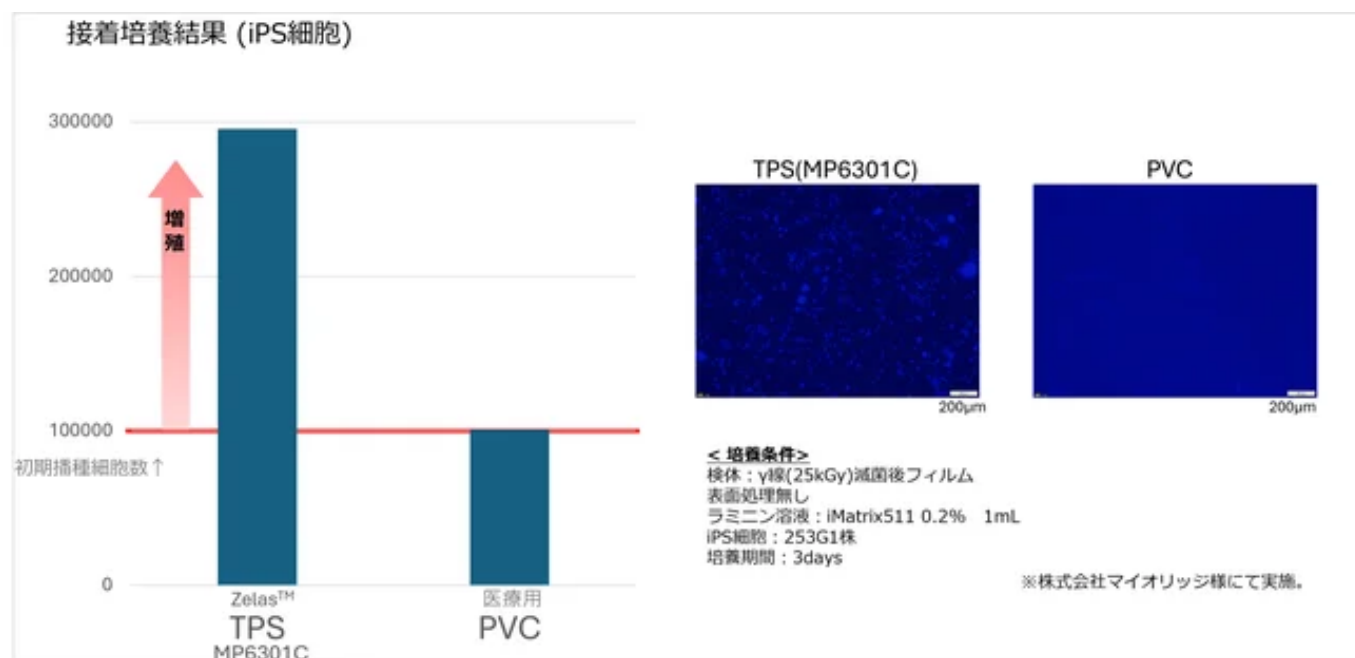


iP-TEC® 細胞培養用TPEチューブ

三菱ケミカル株式会社が開発した素材を使用

株式会社サンブラテックは、大阪市に本社を置く理化学機器・器具メーカーです。今回、素材メーカーである三菱ケミカル株式会社と協力し、細胞培養に使う新しいチューブ（Zelas™ シリーズ）を国内で開発しました。

三菱ケミカルが行った実験では、iPS細胞をこの素材の上で培養したところ、これまでよく使われてきた素材（PVC＝ポリ塩化ビニル）に比べて、良好に増えることが確認されています。



三菱ケミカル株式会社が実施した接着培養試験結果

新製品の3つのポイント

1. 国内でつくる

サンプラテックが国内で製造・販売するため、海外に頼らずに必要な量を安定して届けられます。また、培養装置やポンプ、バッグ、コネクタなどに合わせたカスタマイズにも対応します。



チューブの仕様例

2. つなぎ目から雑菌が入りにくい

チューブ同士を熱で溶かしてつなぐことができるため、容器を開けずに培養液を交換できます。作業中に外の空気に触れる機会を減らせるので、雑菌が入り込むリスクを抑えられます。

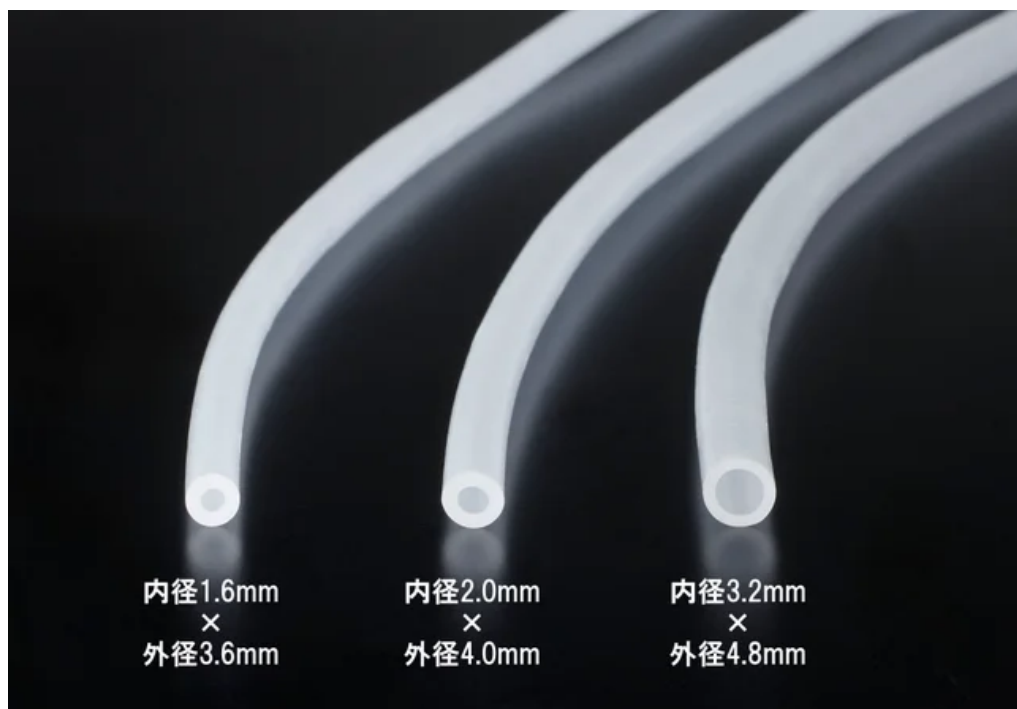


超音波シーラー

3. 用途に合わせて選べる6種類

チューブの太さは全部で3種類をラインアップ。あらかじめ滅菌したものとしていないもの、合わせて6種類を用意しました。研究段階から実際の製造まで、使う場面に応じて選べます。

またγ線滅菌（25kGy）とオートクレーブ滅菌いずれにも対応し、ご使用の環境や用途に応じたご使用もいただけます。



チューブサイズ	未滅菌品	滅菌済品	主な想定用途
内径1.6 mm × 外径3.6 mm	○	○	少量送液、サンプリング
内径2.0 mm × 外径4.0 mm	○	○	培地・薬液の移送
内径3.2 mm × 外径4.8 mm	○	○	流量を要する送液工程

[製品ページはこちら](#)

開発担当者コメント

株式会社サンブラテック 企画開発本部 商品開発部長 土井猛司

再生医療が今、正に産業化しようというタイミングで、細胞培養専用チューブをリリース出来ることを嬉しく思います。再生医療の発展によって、様々な病気、症状にお困りの患者様の手助けとなる製品、研究に役立つプロダクトの開発をこれからも進めて参ります。

製品概要

製品名	iP-TEC® 細胞培養用TPEチューブ
販売開始日	2026年8月3日（月）
製品構成	3サイズ、滅菌済・未滅菌の計6品番
販売単位	各1巻15 m
サイズ	内径1.6 mm×外径3.6 mm 内径2.0 mm×外径4.0 mm 内径3.2 mm×外径4.8 mm
採用材料	三菱ケミカル株式会社「Zelas™ シリーズ」
主な用途	細胞培養時の培地・薬液移送、サンプリング、閉鎖系培養回路の構築
価格（税抜き）	未滅菌品：10,000円、滅菌済品：12,000円
販売地域	日本国内
製品ページ	https://www.sanplatec.co.jp/product.php?id=1751

参考リンク

- 三菱ケミカルグループニュースリリース／サンプラテック社の細胞培養チューブに医療用熱可塑性エラストマー「Zelas™ TPS」が採用
https://www.mcgc.com/news_release/02616.html
- 三菱ケミカル株式会社 記事「細胞培養用チューブ選定ガイド 再生医療の未来を支える材料選びのポイント」
<https://ppd-japan.mcgc.com/blog/cell-culture-tube>

株式会社サンプラテックについて

「プラスチックとテクノロジーの融合」を基本理念に、自社のオリジナルブランドを中心としたプラスチック製理化学機器・器具の製造販売を行うメーカーです。研究室から製造現場、工場などで使用されるボトルから、オーダーメイドのプラスチック製品の製造、細胞培養容器やアイデア商品の開発まで、幅広い分野で活用いただいています。

<ブランド>

- ・細胞培養、ライブ輸送の容器&デバイスを取り扱う「iP-TEC®」
- ・研究室の実験機器、設備を取り扱う「LC4P®」
- ・実験、研究、製造現場のプラスチック製ボトル容器を取り扱う「IREMONO」
- ・研究者に寄り添ったアイデア商品を展開する「Platine®」

本件に関するお問い合わせ先

株式会社サンブラテック

担当部署：企画開発本部 企画部 広報戦略課 担当者：大塚、鶴木

電話番号：06-6353-5326

メールアドレス：ootsuka@sanplatec.co.jp

株式会社サンブラテックのプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/140676